

公開講座ダイジェスト2022

跡見学園女子大学公開講座の記録



刊行にあたって

跡見学園女子大学では新座市教育委員会との共催、並びに埼玉県教育委員会・埼玉まなびいプロジェクト協賛事業、文京区公益財団法人文京アカデミーの後援を得て、新座、文京の各キャンパスにおいて年2回の公開講座を開催している。コロナ禍が落ち着きはじめた令和4年度は、感染対策をとりつつ対面での実施となった。

春期・新座キャンパスのテーマは「ミステリーの愉しみー名作への招待」。誰でも知るエドガー・アラン・ポー、江戸川乱歩、アガサ・クリスティーの魅力を再発見するヒントがちりばめられた内容であった。文京キャンパスでは「産業社会における倫理を考える」をテーマとした。「倫理」という一見堅苦しい概念が、実はファッションなどを通じて日常生活と深く結びつくものであることを理解してもらえたのではないかなと思う。

秋期・新座キャンパスでのテーマは「心の聞き方 伝え方」であった。講師陣はいずれも「ことばの現場」体験が豊富。実践的なアドバイスが参考になったという参加者の声が多く寄せられている。文京キャンパスの「子どもと家庭を応援する心理学講座」では、子育てという切実な社会課題とどう向き合えばいいのかを考えた。3人の専門家の講演内容は参加者にとって有益なアドバイスとなったようである。

地域の方々の学びへの欲求は増大している。今後とも社会貢献の一環として、本学の知の資源を提供していきたい。

令和5年3月

跡見学園女子大学

学長 小 仲 信 孝

CONTENTS

刊行にあたって	跡見学園女子大学 学長 小仲 信孝	1
春期教養コース（新座キャンパス） ミステリーの愉しみ ― 名作への招待		3
1. 越境するミステリー ― ポーからボードレールへ ―	本学文学部人文学科講師 中山慎太郎	
2. 江戸川乱歩の魅力	元立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術調査員 落合 教幸	
3. アガサ・クリスティーの世界	本学文学部人文学科教授 香山はるの	
春期教養コース（文京キャンパス） 産業社会における倫理を考える		6
1. 職業人の倫理とは	本学マネジメント学部マネジメント学科講師 村上 理	
2. エシカル＝倫理は、おしゃれ	本学マネジメント学部生活環境マネジメント学科准教授 横井 由利	
3. 幸せな会社とは	本学マネジメント学部マネジメント学科教授 細川 淳	
秋期教養コース（新座キャンパス） 心の聞き方 伝え方		9
1. 心の声を聴きとる 明快地伝える	本学文学部コミュニケーション文化学科教授 渡部 英美	
2. 日米の文化を比較して	本学文学部コミュニケーション文化学科教授 ネバラ ジョン	
3. 映画制作現場から学ぶ― 実践コミュニケーション力―	本学文学部コミュニケーション文化学科教授 松浦 雅子	
秋期教養コース（文京キャンパス） 子どもと家庭を応援する心理学講座		12
1. 子どもの成長・家族の成長 ― 家族の悩みを乗り越える心理学 ―	本学心理学部臨床心理学科講師 福島 里美	
2. 地域の子どもと家族を守り応援する文京区の取組について ― 文京区子ども家庭支援センターの現在と児童相談所の未来 ―	文京区役所 子ども家庭部 児童相談所準備担当課長 佐藤 武大	
3. 子どもの安心を育てる ― 不安を乗り越える心理プログラム紹介 ―	本学心理学部臨床心理学科教授 下山 晴彦	
受講生からのレポート		15
資料		19

公開講座春期教養コース（新座キャンパス）
ミステリーの愉しみ ― 名作への招待
2022年6月11日～6月25日（毎週土曜日）〈全3回〉
〈講座責任講師〉 本学文学部人文学科講師 中山 慎太郎

映画、ドラマ、演劇、漫画、アニメ、ゲーム…
19世紀アメリカで生まれたミステリーは文学の一ジャンルを超えて、様々な芸術、文化活動のなかで華々しく展開され、多くの人々を魅了している。そのように易々とジャンルを越境し、多くの人々を魅了するミステリーの魅力とは一体何なのか、また、どのように多くの読者を魅せてきたのか。

本講座では、ミステリーの祖と言われるエドガー・アラン・ポー、日本におけるミステリーの開拓者である江戸川乱歩、ミステリーの女王と呼ばれたアガサ・クリスティーといった、代表的な3人の作家に焦点をあて、作家自身とその作品の魅力について考察しながら、ミステリーというジャンルそのものが持つ魅力を浮き彫りにすることを目的とした。フランス文学を専門とする中山は、ミステリーの祖エドガー・アラン・ポーの作品の魅力を、フランスの近代詩人シャルル・ボードレールによる受容から考察した（第1回 6/11）。また、元立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術調査員、落合教幸は、池袋にある旧江戸川乱歩邸を紹介しつつ、乱歩作品の特徴について講義を行なった（第2回 6/18）。また、イギリス文学を専門とする本学教授、香山はるのは、クリスティーの人生や彼女が作家として活躍した時代について考えながら、その作品の魅力を探った（第3回 6/25）。

講座に寄せられた感想について。3回にわたる講座全体の構成について、企画全体のバランスが良く、アメリカ、日本、ヨーロッパの作家という点が良かったとのこと言葉を頂戴することが出来た。限られた講座数のなかで、できる限り多角的にミステリーの魅力を探ることを目的とした私たちにとって、非常にありがたいお言葉であった。

講座にご参加いただいた皆様に、コロナ禍のなか本学（新座キャンパス）に脚を運んでいただいたこと、そして熱心にご受講いただいたことに、この場を借りて感謝申し上げます。

〈第1回 6月11日〉

越境するミステリー

― ポーからボードレールへ ―

本学文学部人文学科講師

中山 慎太郎

エドガー・アラン・ポー（1809-1849）の作品は、本国アメリカよりも、大西洋を渡ったヨーロッパで高く評価された。そのきっかけとなったのは、近代詩の祖と称されるフランスの詩人シャルル・ボードレール（1821-1867）による紹介と翻訳である。本講座では、ミステリーの原点となった「モルグ街の殺人」（1841）の魅力を探りつつ、どのような点がボードレールの感性を刺激したのか、彼らの作品にある共通点を探った。

日本ミステリーの開拓者、江戸川乱歩は、「もしポオが探偵小説を発明しなかったら、（中略）現在の形式の探偵小説は今世紀に入っても生まれなかったかも知れない」と指摘している。悪や死を主題とするゴシック小説を得意としたポーの「モルグ街の殺人」には、猟奇的な殺人といった主題のみならず、天才的な探偵と凡人の聞き手、警察がお手上げとなる難事件（密室殺人）、「結末の意外性（意外な犯人）」など、ミステリーによくあるプロットがすでに見られる。

（ちなみに、19世紀パリを舞台とする本作の「現場」となる「モルグ街」は、ポーによる虚構の「街路 rue」であるが、本講座では、19世紀の地図を用い「モルグ街」がパリのどのあたりにあるか、作品に出てくる様々な情報から「推理」をおこなっ

た。)

一方、ボードレールは詩集『悪の華』(1857, 1861)のなかで、倦怠と絶望の淵で呻吟する人間の内面世界を、その悲惨さや、その内奥に住まう「悪」から目をそらさずに歌い上げた。そのようなボードレールはポーの作品のなかに同類の主題を見たわけだが、そののみならず、探偵オーギュスト・デュパンの推理能力、残された情報から隠された秘密を暴く能力のなかに、「事物の内面的で密かな関係を、^{ヒソ}照^{コレスポナンス}応^{ア・ナ・ロジー}と類縁関係を感じ取る、神々しい言ってもいいような能力」としての「想像力^{イマジネール}」を見ている(ポーはミステリーの原形となった作品群を「推論能力を働かせる物語 *ratiocinative tales*」と呼んでいた。)すなわち、ポーの散文作品が主題とする「悪」や「猟奇性」、さらには「知」としての「想像力」が、地理とジャンルを越境し、ボードレールの詩的感性を大きく刺激したのであった。

〈第2回 6月18日〉

江戸川乱歩の魅力

元立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術調査員

落合 教幸

江戸川乱歩の生涯と作品の特徴について、資料の紹介などをまじえて解説した。この回を担当した落合教幸は、旧江戸川乱歩邸の資料整理に携わった経験を持つので、その際に触れた現存する資料の話から展開し、乱歩の小説作品に頻出するモチーフ等を説明した。

池袋にある旧乱歩邸は、隣接する立教大学に移管された。土地・建物だけでなく、多くの資料も大学の管理となった。書籍だけではなく、旧江戸川乱歩邸にはさまざまな資料が残っていたので、その中から重要なものをいくつか紹介した。

乱歩は資料をよく保存していただけでなく、自分について語る文章も多く書いたので、乱歩の人生は比較的よく知られている。大正末にデビューした乱歩は、初期には短篇を多く書き、探偵小説愛好家に知られる存在となる。その後、昭和初期

には読物雑誌に長篇を連載し、一般の読者にも知られる存在となった。後半生、特に戦後になると、少年物と評論・随筆が重要になっていく。乱歩の執筆活動は年代により傾向が異なるところもあるので、おおまかにでもどの時期に書かれたものなのかを意識して読むと、より面白く乱歩の小説を読むことができる。

講座の後半では、視覚へのこだわりを乱歩の特徴として取り上げた。「屋根裏の散歩者」がその代表で、下宿の屋根裏から他の住人を観察する男の話である。相手に知られることなく覗き見ることの興奮を表現している小説となっている。また、いくつもの小説で描かれる、鏡やレンズといった道具もその延長線上にある。「鏡地獄」に登場する、内側を鏡張りにした球体が有名だが、この小説ではそれ以外にもいくつもの光学的な悪戯が語られている。このように、こだわりを持つ要素について、手を変え品を変え語っていくのを見るのも、乱歩作品を読む楽しみとなっている。

〈第3回 6月25日〉

アガサ・クリスティーの世界

本学文学部人文学科教授

香山 はるの

「ミステリーの女王」と呼ばれるアガサ・クリスティー(1890-1976)の作品は、世界中の人々に読み継がれ、愛されている。講座ではクリスティーの人生や時代背景を考えながら、代表的な作品を幾つか取り上げてその魅力を探った。

まず、パワーポイントと配布資料を使って、クリスティーの生まれ育った環境や推理小説に興味を持ったきっかけ、『スタイルズ荘の怪事件』誕生の背景について話をした。1920年に出版されたこの作品は、ミステリー作家アガサ・クリスティーのデビュー作であると同時に、「ミステリーの黄金時代」の幕開けを飾る作品といえる。

次に取り上げたのは、『アクロイド殺し』(1926)である。「叙述ミステリー」という観点から、大論争を巻き起こしたトリックについて話した。作品

は大ヒットしたが、1926年は母親の死や自身の離婚問題などクリスティーにとって辛い年であった。しかし、彼女は悲しみを乗り越え、数々の名作を生み出していった。

講座の後半では、『牧師館の殺人』(1930)、『オリエント急行の殺人』(1934)、『そして誰もいなくなった』(1939)など、クリスティーの全盛期である1930年代の作品を取り上げた。『牧師館の殺人』ではDVDを使い、「田園ミステリー」について話をした。受講者の方々が、熱心に映像を視聴される姿が印象的であった。『オリエント急行の殺人』に関しては、物語執筆のヒントになった実在の事件について解説するとともに、クリスティーの人物造形について考察した。また、マザーグースの歌の「見立て殺人」で知られる『そして誰もいなくなった』に関しては、クリスティーの心理描写に焦点を当てた。以上の作品の考察をふまえ、最後にクリスティーの魅力について、個性的なキャラクターや興味深いトリック、人間性への深い洞察、文章の読みやすさなどを挙げて、まとめた。

公開講座春期教養コース（文京キャンパス）
産業社会における倫理を考える
2022年7月9日～7月23日（毎週土曜日）〈全3回〉
〈講座責任講師〉 本学マネジメント学部マネジメント学科講師 村上 理

文京キャンパスで行われた「令和4年度春期公開講座」（教養コース）では、「産業社会における倫理を考える」と題して、マネジメント学部の教員3名が講話を行った。3名は、それぞれ専門領域は異なるものの、倫理問題、とくに産業分野における倫理問題に関心を抱いている。村上講師は、個人（職業人）という単位で倫理問題を捉えることに重点を置き、細川教授は、法人（会社）という単位で倫理問題を捉えることに重点を置く。また、横井准教授は、産業（より具体的には、ファッション産業）という単位で倫理問題を捉えることに関心がある。このように、本講座では、各講師が三者三様に倫理問題について講話を行うことを通じて、産業分野における倫理上の論点を多角的に提示することを試みた。

第一回目は、7月9日（土）に開催され、村上理講師が「職業人の倫理とは」と題して、職業行為と倫理問題についての講話を行った。第二回目は、7月16日（土）に開催され、横井由利准教授が「エシカル＝倫理はおしゃれ」と題して、ファッション産業における倫理問題についての講話を行った。第3回目は、7月23日（土）に開催され、細川淳教授が「幸せな会社とは」と題して、国内外における先進的な会社の事例を交えながら、倫理問題に関する講話を行った。

なお、講義後のアンケート結果を確認すると、「この講座を受講して、内容について興味や関心が深まりましたか」という問いに対して、約93%の受講者が「深まった」と回答している。また、自由回答において「〇〇をさらに知ることができた」、「〇〇を見ていく視点を得ることができた」などの知的な刺激に関する感想が寄せられたことは、一定の成果であったと言えよう。他方、人数制限の妥当性や内容の難易度の設定など、いくつかの点で改善の提案も寄せられたため、次回以降

の検討課題とすべきであろう。

〈第1回 7月9日〉

職業人の倫理とは

本学マネジメント学部マネジメント学科講師
村上 理

公開講座春期教養コース「産業社会における倫理を考える」の第一回目として、職業人の倫理を扱った。まず、本講話の目的として、職業倫理における「正解」を上から目線で示すことは意図しておらず、むしろ職業倫理を考えることの困難を一緒に考えて行きたい旨を説明した。ここにおいては、例えば、ジャーナリズム倫理の領域における1993年の「ハゲワシと少女」に関する論争などを紹介し、職業倫理を考えることが単純な問題ではないことを説明した。

続いて、職業倫理を考える前段階として、一般的な倫理について概観した。

その後、職業倫理の歴史を概観した。ここでは、いわゆる専門職と呼ばれる領域では職業倫理が成文化され、発展しやすい旨を、世界最古の職業倫理基準である「ヒポクラテスの誓い」を例に説明した。世界最古の職業倫理基準がなぜ医師の領域で誕生したのかについては、一説には医師という職業に備わった専門性の高さが関連しているとされる。すなわち、医師の仕事は専門性が高いため、患者の立場からはその仕事の善し悪しを判断しにくい。ここにおいて、医師の立場と患者の立場には格差があり、患者は不利な立場に置かれる。そこで、患者を保護するために、医師たち自らが倫理基準を定め、これに従うこととしたのだとする説である。

以上のような説明を裏付けるかのように、近代以降の社会では、いわゆる専門職と呼ばれるよう

な職業人たちが自発的に職業倫理基準を発達させるようになった。

続いて、本講話では、歴史上専門職の領域において先行してきた職業倫理基準であるが、今後はあらゆる職業にこれが求められてくるのではないかという意見が示された。すなわち、現代では、ビジネスが高度化し、「誰もが専門家」とでも言うべき状況になりつつある。買い手のニーズは多様化する一方で、売り手との情報の格差は大きい。売り手の非倫理行為から買い手を守ること（＝倫理の強化）の必要性は高まっているのではないかとする意見である。

講話の最後には、担当講師による本学学生に対する職業倫理教育の様子が紹介された。なお、受講者には本学出身者も含まれていたようであり、受講後のアンケートには女子教育についての応援のメッセージも寄せられた。

〈第2回 7月10日〉

エシカル＝倫理は、おしゃれ

本学マネジメント学部生活環境マネジメント学科准教授

横井 由利

この講座では、『ファッションと倫理 ―エシカルファッションとは』をテーマに講話をおこなった。

18世紀の頃、ファッションを楽しむのは王侯貴族や一部の特権階級だけであった。男性ファッションも華やかな時代ではあったが、それ以上に女性たちは美しく着飾り、男性の気を引くことに余念がなかった。おしゃれに夢中になる女性は、「浅はか女」と見做され道德家の批判の的となっていた。当時の倫理観とファッションは水と油の関係であった。

20世紀に入ると、ファッションの民主化が進み、庶民も流行の服を楽しめるようになった。近年では、大量の服が安価に製造され、消費者は安価な流行の服を手に入れ、古くなった服は意図もなく捨てるという、大量生産、大量廃棄の時代を迎えたことで、ファッション産業が環境に悪影響を及

ぼす第2の産業となった。

そのような現象を敏感に受け止めるファッションデザイナーは、環境に配慮し、労働者へは人道的配慮をした服作りを始めた。「エシカルファッション」の始まりである。エシカルとは倫理的を意味する言葉で、当初は17、18世紀に逆戻りしたのかと訝る声もあった。そうした批判を打ち消すように、2004年パリコレクションのタイミングに合わせて、イザベル・ケエは、「エシカルファッションショー」をパリで開催した。

「エシカルファッション」とは、人間と環境に敬意を払うものであり、次世代のために地域固有の文化や技術を引き継いでいくものと定義されている。さらに、エシカル＝倫理とファッションは今や水と油ではなくなったことを、“L'ETHIQUE C'EST CHIC”「倫理はおしゃれ」という言葉に置き換え、イザベル・ケエは新しいファッションが誕生したことをアピールした。以来「エシカル＝倫理的な服作り」は、ファッション界の常識となり、ブランド独自のエシカルな取り組みをおこなうようになった。

以上のことを、いくつかの事例を交えて講話した。

〈第3回 7月17日〉

幸せな会社とは

本学マネジメント学部マネジメント学科教授

細川 淳

筆者の専門分野であるエシカル・ビジネス論およびコーオウンド・ビジネス（従業員所有事業）論の研究対象である日米英の会社を紹介し、「会社」「事業」「組織」「仕事」に対する聴講者のステレオタイプなイメージを良い意味でぶち壊す事例を示した。

エシカル・ビジネスは、社会・環境課題の解決を事業の中心に据える事業モデルである。コーオウンド・ビジネスは、従業員が自らが勤める会社のオーナーとなる事業モデルである。

事例で示した多くの会社では、従業員のしあわ

せの実現を第一目的としている。この仕組みにより、従業員は顧客、取引先、原産国の生産者、地域社会などのステークホルダーと多元的に共助するようになり、その成果として「しあわせ」がステークホルダー間で循環し増大する。

これらの会社は一般の会社と異なり過度な成長を忌避し、株主価値極大化に価値を求めない。また、従業員が自発的に組織化して諸課題に取り組むため、トップダウンの指示系統が無効化している。

上記講演に絡めて、聴衆に対して「研究」という事への興味喚起を促した。「研究」は研究者の専有物ではなく、誰でもが関心ある分野を調べ考察し、自身の知的好奇心を深耕する事で、人生を豊かにしてくれる一助となる事を伝えた。

聴講者から以下のようなコメントを頂戴した。

「倫理について、正義、善悪とはまた別の側面で資本主義には課題があると感じた。とてもためになった」「あっという間の時間だった。『しあわせな会社』という事だけでなく、これからの自分の生活の中で、必要なこと『知ろうとすること』『深堀していくことによって人間の本質につながる』という言葉もとっても心に響いた」「当たり前ととらえていた物事を自分の中からかき回された感じでとまどっている。先生が言うように疑問を大切に深ほりして、人間の、私の本質に近づいていきたい。ジレンマ、矛盾を抱えつつ折り合いをつけバランスをとることが大切」

跡見の教育研究に対し、一般の皆様が関心を持っていただく一助となれたのであれば幸甚である。

公開講座秋期教養コース（新座キャンパス）

心の聞き方 伝え方

2022年11月19日～12月3日（土曜日）〈全3回〉

〈講座責任講師〉 本学文学部コミュニケーション文化学科教授 渡部 英美

テーマを「心の聞き方 伝え方」として、11月から12月の土曜日午前に90分間の講座を3回行った。コロナ禍の中、開催が危ぶまれたが小康状態の時期に無事実施できた。講師は文学部コミュニケーション文化学科で、日本語コミュニケーションが専門の渡部と松浦、英語コミュニケーションが専門のネバラが担当した。

第1回は「心の声を聴きとる 明快に伝える」をテーマにNHKアナウンサー出身の渡部が、インタビューの手法のひとつアクティブラスニング（インタビューリスニング）で深層心理を掘り起こす方法を説明し、心の奥底に沈んでいる言葉の芽を掘り出す方法でコミュニケーションが深まることを参加者に体得してもらうことを試みた。さらに短いセンテンスの積み重ねで明快に伝える手法を実践した。

第2回はアメリカ出身のネバラが、「日米の文化を比較して」というタイトルで、グローバル化する世界の中で日米の文化を比較し、異文化理解を深める講座を行った。この中で異文化研究の世界的研究者ホフステッド教授を取り上げ、国民文化の違いを相対的に比較できるようスコア化した事例を紹介した。

第3回は「映画製作現場から学ぶ実践コミュニケーションカー」と題して映画監督やCMディレクターとして活躍してきた松浦が、役割も性格も年齢性別も異なる集団が正解のないゴールをどのようにして目指すかを述べた。大切なのは、心の声を聞き、伝えるコミュニケーション力で、どうすれば個性を活かしながらお互いが分かり合えるかを、具体的なエピソードを交えながら考察した。

参加者からの発言や質問も多く、事後のアンケートでは「内容について興味や関心が深まったか」という質問に「深まった」という回答が3回の講座とも95%を上回った。

〈第1回 11月19日〉

心の声を聴きとる 明快に伝える

本学文学部コミュニケーション文化学科教授
渡部 英美

本講座では、「聴く」（きく）と「伝える」という二つのテーマを置いた。どちらも日常の会話に欠かせないコミュニケーションスキルだが、改めて考える機会はありません。特に「聴く」では、普段の生活ではこれまであまり意識して来なかった「傾聴」のジャンルの中でも特に聴き手の深層心理にまで気を配る聴き方を体験していただいた。

傾聴には相手の心の中で何が芽生えているか、情報を集めることが大切である。そのためには相手のことばの中に込められた「何か」を突き止めるなければならない。受け止める力、聴き取る力が試される。そのスキルのひとつが「インタビュー・リスニング」（アクティブ・リスニング）である。事例として家族の父親の挿し絵を見てもらいながら、「あ～あ…。疲れたなあ…」という吹き出しとともにため息をつく姿に対して、どう言葉をかけたらいいか、意見をだしてもらった。「どうなの？」では、「どうして」という理由の話になってしまい、心の声にはいかない。考えた末、「たいへんね」とか「おつかれさま」とかという「ねぎらいや同意」のことばが次の答えに進むことを体感していただいた。

一方、「話しことば」は「消えてしまう」という特徴がある。聞いた順に分かるように伝えて、それが整理されて記憶に残るように伝えるにはどうしたらいいかを説明した。事例として次の文章を聞いてもらった。「私は、少年時代から山登りが大好きで、学生時代には山岳部に属して国内の主だった山は殆ど登り、社会人になってからも仲間と海外の山まで足を延ばして定年後の今は山小屋を開いている友人にきのう会いました。」

一文が長いと伝わらないことを実感していただいた。伝えることを記憶に残すには、「少年時代から山登りが大好きでした」のようにセンテンスを短く言い切ることが大切である。

〈第2回 11月26日〉

日米の文化を比較して

本学文学部コミュニケーション文化学科教授
ネバラ ジョン

日本の文化の本質はどこにあるか。他国の文化の本質はどこにあるか。本講座では、「コミュニケーションの中の異文化理解：日米の文化を比較して」というタイトルで、異文化理解を深めることを目標として講義を行った。

先ず、米国で生まれ育ち、30年日本に滞在している講師自身の体験を基に、国際結婚に起こりうる問題等の異文化実例を挙げた。異文化によく使われることわざや名言も紹介した。

その次に、日本に住んでいる外国人の目から見て、不思議に思う日本人の文化的行動について話した。家族や友人とのスキンシップ（ハグ等）の度合い、時間に対する几帳面さなどを例に挙げて、受講生の「日本人度」をクイズ形式で計った。

次の本題ではもう少し詳しく、異文化理解を専門にした著名な学者二人の研究を紹介した。オランダ人のホフステード（1928-2020）とアメリカ人のホール（1914-2009）が行った研究で、異文化理解を深めることができるという狙いで、この二人を選んだ。

ホフステードが考えた国民文化6次元モデルについての説明を行った。この6次元は以下の通りである。

- * 権力格差（大きいか小さい）
- * 集団主義/個人主義
- * 女性性/男性性
- * 不確実性の回避（高いか低い）
- * 短期志向/長期志向
- * 人生の楽しみ方（充足的か抑制的）

そして、ホールが考えた高文脈文化/低文脈文化

について話した。低文脈文化にはコミュニケーションの主な手段は言語によるものになる。逆に、高文脈文化にはコミュニケーションの手段は言語以外の要素がかなり含まれていると思われる。言うまでもなく、米国が低文脈文化で、日本が高文脈文化になっていると考えられている。

講義の最後に、米国と日本の話ばかりにならないよう、講師のフランスに住んでいる娘が考えたフランス文化について少し話して、講義を締めくくった。質疑応答の時間は殆どなく、ちょうど90分で終了した。

〈第3回 12月3日〉

映画制作現場から学ぶ

一 実践コミュニケーション力

本学文学部コミュニケーション文化学科教授
松浦 雅子

「映画制作現場から学ぶ～実践コミュニケーション力～」という表題で、コミュニケーションにおける“他者の視点”と“想像力の翼”について、講演を行った。

私は、長年、映画や広告の世界で、演出・脚本家として活動してきたが、映像制作現場は、まさに役割も性格も年齢性別も全く異なる背景を持つ人間たちが、一同に集合する現場だ。そして、各所から出たアイデアを一つにまとめ、時には激しく対立し、融合しながらゴールに向かう、特殊な戦いの場と言える。だからこそ、相手の心の中の声に耳を傾けるという「聞く力」と「コミュニケーション力」が何より重要になる。どうすれば、お互いの強い個性を活かしながらも、尊重しあえるのかを、具体的な話し合い方を交えて解説した。繊細な感覚を他者に伝えることは困難さを伴うが、言葉で伝えにくい質的な微妙なセンスをなんとか伝えたいと、独自のコミュニケーションを生み出し駆使している現場だ。

実は、この「伝わるための」「表現」を探していく作業は、まさに、我々の日常でのコミュニケーションの方法と全く同じである。私たちは、自分

の言葉を紡ぎながら、それぞれの個性や気持ちを、
「独自のコミュニケーション」として、まさに“表現”しているのだと言える。そこで大事なのは、異なる感性を互いに尊重しながら、“他者の視点”を持ち、“想像力”を駆使することである。何より重要なのは、他者への想像力の翼を持ち続けることかもしれない。それは、我々が持つ「クリエイティビティ」という想像力を思う存分に伸ばしていくことに他ならない。まさに、コミュニケーションとは、まさに、「創造」する“表現”活動であると言えるのだ。

マニュアルのない新しいメディア時代の中、我々のコミュニケーションのあり方は大きく変容している。人との繋がり方・方法論が、未曾有の激変をしている。だからこそ今、我々は、想像力の翼を大きく広げ、他者の視点を持ち、俯瞰でこの世界を見つめ直し、より良きコミュニケーションを創造し、“表現”へと高めていく必要があると結論づけた。

公開講座秋期教養コース（文京キャンパス）
子どもと家庭を応援する心理学講座
2022年12月10日～12月24日（毎週土曜日）〈全3回〉
〈講座責任講師〉 本学心理学部臨床心理学科教授 下山 晴彦

近年、少子化対策の必要性が叫ばれる一方で、増え続ける虐待への対応が求められている。そこで、子どもが健やかな成長できる環境づくりをしていることが、社会全体の課題となっている。コロナ禍を経験することでDVや虐待が増加し、子どもの安全な成長を守るための支対策がさらに一層強く求められるようになっていく。

虐待対応については、平成28年度に児童福祉法が改正され、特別区における児童相談所設置が可能となった。これは、地域住民の健康で安心な生活基盤を整備する中に子育て支援を位置付け、その拠点として児童相談所の新たな役割と可能性を探ることにもつながっている。文京区でも令和7年の開設に向けて新たに児童相談所の開設準備が進んでいる。

子育て支援については、こどもや若者が自分らしく成長できる社会を目指して令和5年4月1日に「こども家庭庁」の発足が決定している。こども家庭庁設置法の第三条では、「こども家庭庁は、心身の発達の過程にある者（以下「こども」という。）が自立した個人としてひとしく健やかに成長することのできる社会の実現に向け、子育てにおける家庭の役割の重要性を踏まえつつ、こどもの年齢及び発達の程度に応じ、その意見を尊重し、その最善の利益を優先して考慮することを基本とし、こども及びこどものある家庭の福祉の増進及び保健の向上その他のこどもの健やかな成長及びこどものある家庭における子育てに対する支援並びにこどもの権利利益の擁護に関する事務を行うことを任務とする。」と記載されている。

このように子どもの健やかな成長を支える環境づくりにおいては、家族、地域、そして行政の連携が重要となる。そこで、跡見学園女子大学の心理学部では、文京区と連携し、子どもと家庭を応援する心理学講座を開催した。第1回は、本学専

任講師の福島里美が「子どもの成長・家族の成長」と題して、家族の悩みを乗り越える心理学を解説した。第2回では、文京区子ども家庭部児童相談所準備担当課長の佐藤武大が「地域の子どもと家族を守り応援する文京区の取組について」と題して文京区子ども家庭支援センターの現在と児童相談所の未来について解説した。第3回（12月24日）では、本学教授の下山晴彦が「子どもの安心を育てる」と題して不安と抑うつを乗り越える心理プログラムを紹介した。

〈第1回 12月10日〉

子どもの成長・家族の成長

一 家族の悩みを乗り越える心理学一

本学心理学部臨床心理学科講師
福島 里美

子どもと家庭を応援する心理学講座の第1回は、「子どもの成長・家族の成長—家族の悩みを乗り越える心理学—」をテーマに、子どもを育てる家族の変化と成長、さらに家族の悩みが生じた場合の解決策や支援策について、家族心理学の視点からお話した。

「夫婦がお互いをどう呼ぶか?」「就寝時間と起床時間」「布団の配置」といった日頃の生活やルーティーンを思い返すだけでも、子どもの誕生・成長とともに変化する家族は多いことが分かる。

講座では、家族の発達と変化を（1）子どもが産まれる前、（2）乳幼児を育てる時期、（3）児童期の子どもを育てる時期、（4）青年期以降の子どもを育てる時期の4段階に分け、それぞれの段階の発達課題と典型的な悩みを取り上げた。

発達課題とは、それぞれの時期に多くの人が出会い、乗り越えていく課題である。例えば子どもが生まれた後は「子どもを含めた生活パターンへの修正」や「家事・育児の役割調整」といった発

達課題に合う。多くの家族は、様々な発達課題に直面しても、時には衝突したり、話し合ったりしながら乗り越えるが、乗り越えられずに関係不和に陥ったり、心身の症状として表面化したり、より深刻な悩みに発展する場合もある。

そこで、家族の悩みを乗り越える様々な方法として、家族メンバーのニーズや成長に合わせた家族のルールや役割の変更、家族内でのコミュニケーション方法など、モデル事例を交えながら様々な解決策を紹介した。

受講者の皆さんは、典型的な家族の悩みにうなずいたり、解決策をメモしたりと大変熱心であった。事後アンケートでは、受講者の88.2%から「テーマについて興味や関心が深まった」とご回答をいただき、講座を通じて心理学の面白さや心理学的視点を共有できたと思われる。

〈第2回 12月17日〉

地域の子どもと家族を守り応援する文京区の取組について

一 文京区子ども家庭支援センターの現在と児童相談所の未来一

文京区役所 子ども家庭部 児童相談所準備担当課長
佐藤 武大

前半の講義では、児童相談所準備担当課長より、「児童相談所の役割について」として、児童相談所の法的な役割や機能について説明した。児童相談所は、児童に関わる広範な相談を受ける機関であるが、近年とりわけ虐待に関する相談件数が大幅に増加している。児童相談所は介入的な法的権限を持ちながらも、あくまでも支援機関の役割を担っており、介入と支援の狭間で、現場職員が奮闘している旨を解説した。また、「児童相談所を取り巻く現在の状況」として、国や東京都、特別区の児童相談所を取り巻く現在の状況について、また最新の児童福祉法改正の動向等について、データを用いながら概観した。最後に、(仮称)文京区児童相談所の準備状況について展望した。文京区を含めた特別区が児童相談所を開設することは、

都道府県所管であるところからの大きな転換であり、地域密着型の、関係機関からより近い児童相談所を設置する意義と、地域社会からの理解が一層必要となることを説明し、総括とした。

講義の後半は、子ども家庭支援センター所長より、現在の子どもを取り巻く状況や児童虐待について説明した。児童虐待は統計上4つに分類されるが、子どもの養育とかけ離れた不適切な関わりすべてが児童虐待である。虐待は、子どもの健全な成長を阻むだけでなく、一生に亘って生きづらさを抱えるほどの影響があるといわれている。

国や都道府県、文京区などの区市町村が児童虐待防止の対策を強化しているが、件数の増加は続いている。児童虐待が起こる背景としては、子育て家庭が孤立しやすいことが挙げられる。近年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、保護者の心身の状態や経済的な不安、そうしたストレスの蓄積が、最も近くにいる子どもに向かってしまうことは少なくない。児童虐待は、未然に防止することが重要であり、人と人とのつながりを大切に、子どもを守り育てる温かな社会となるようにこれからも皆さんの協力をお願いしたい。

〈第3回 12月25日〉

子どもの安心を育てる

一 不安を乗り越える心理プログラム紹介一

本学心理学部臨床心理学科教授
下山 晴彦

子どもは、成長していく過程で時として不安や恐怖を経験する。しかし、それを乗り越えることで成長していく。しかし、現代日本社会では、その段階を乗り越えられずに、不安や抑うつ状態になり、不登校、引きこもり、いじめなどの問題が生じてきている。残念ながら、現代日本社会は、豊かな消費社会、高度情報社会であり、モノや情報があふれる一方で、子どもたちは、様々な「心の問題」を抱えてしまっている。

子どもは、自身の不安や落ち込みを表現できない。むしろ、集中力の低下、無気力、成績低下、

不眠や食欲低下、生活の乱れ、不登校などの問題行動や身体症状として現れる。そのため、周囲の者は、「甘え」や「さぼり」、「怠け」、「我儘」と誤解して、本人を非難したり、がんばらせたりする。その結果、本人が自分を責めて、さらに不安や抑うつが深刻化し、「周囲の人に理解してもらえない。周りの人の期待に応えられない。人が怖い。」と考え、ネットの世界へ、不登校、引きこもりに繋がる。あるいは症状化したりトラブルを起こしたりする悪循環が生じる。

例えば、次のようなことが起きる。「眠れない、食欲がない、つらい。」→でも「自分でなんとかしなくちゃ」と1人でどんどん抱え込む。「学校へ行こうとするとお腹が痛くなる、最近すごくだるい。」→でも「友達・親・先生に心配かけちゃダメだ」と考えて無理して登校する。「最近全然集中できない、成績も落ちてきた。」→でも「自分の努力不足だ」と考えて夜更かしして勉強する。「ストレスでイライラするし、すごく不安な気持ちがある。」→でも「どうしたらいいかわからない！」→衝動的になり、暴力・リスク・いじめに繋がる。

そこで、本講座では、子どもの心理的問題の成り立ちを説明した上で、子どもがこのような「心の問題」を抱えずに、問題に対処できるようになるために、私たちチームが開発した「安心ゲットプログラム」を紹介した。このプログラムでは、不安や恐怖などの「困った」を「安心」にすることが目指されている。デジタル教材を活用して、不安を否定することなく、大切な気持ちの一つとして子どもたちがうまく付き合う方法を楽しみながら学ぶことができる方法を解説した。

教養講座「ミステリーの愉しみ一名作への招待」

春期教養コース（新座）受講生

瀧上 浩司さん

第2回「江戸川乱歩の魅力」を受講して

文化都市・池袋を再生して欲しい

どうも現在の池袋は様変わりして、「LABI1（ラビワン） 日本総本店 池袋」・「ドン・キホーテ池袋東口駅前店」が立ち並んで池袋らしくないのですが、思い起こせば13年前迄の池袋には東口に「特選ビーフカレー缶詰」の「三越池袋店」・腕時計電池交換の「さくらや池袋店」があり、西口には『金色のソナタ 音楽商業主義の内幕 クラウス・ウムバッハ著、西原稔、玉川裕子訳 音楽之友社』を定価 46.4%OFFで購入できる「八勝堂書店」・『主題と変奏 吉田秀和著 中公文庫 昭和55年3月10日再版』を購入できる「夏目書房」が存在して、池袋に出れば心が満たされる感じがありました。

このような中今回のテーマは『江戸川乱歩の魅力』だったのですが、資料に見覚えのある写真がと思ったら11年前の15:55に入場して土蔵の外観を見ていたところ、「済みません、閉館時間です。」と女性職員に声を掛けられていたのです。

私はクラシック音楽が趣味なので野村胡堂が「1918年(大正7)から1928年(昭和3)まで高田町大字雑司ヶ谷亀原(現・雑司ヶ谷1丁目)に居を構えていました。(中略)処女小説「二萬年前」(1922年)を新聞連載したり、胡堂のもう一つの顔であるレコード音楽評論家「あらえびす」としての活動をスタートさせたりといった、その後の活動につながる重要な時期を豊島区で過ごしました。」という状況は知っていたのですが、今回江戸川乱歩の蔵書の解説を聞いて「江戸川乱歩 野村胡堂」でキーワード検索したところ、

『野村胡堂 乱歩氏と私と』

「江戸川乱歩氏と初めて逢ったのは、今から三十年ほど前の、報知新聞社の応接間であった。私はその

頃報知新聞の学芸部長であり、江戸川氏は新進の作家で、その探偵小説は読書界の驚異的であった。

私は写真報知という旬刊誌の編集を監督し、実際の編集は中代富士男君や亡くなった佐近益栄君がやっていたが、写真報知に短篇連載を書くことになった江戸川氏と、打合せをする必要があり、中代君あたりが、誘って来てくれたようである。

(中略)それから、幾度か逢っている。報知の社長室で、軍部と作家の会合で、——場所と時は変わっても、私は乱歩氏の天才と博識と友情にひかされて、絶えず好意を持ち続けたのである。大戦中の乱歩氏は自宅に籠って、静かに写経などをしていたようである。私は頻繁に手紙を往復して気を紛らせていたが、フトしたことからお互に涙香作の蔵書目録を交換し、有無相通じようではないかということになり、乱歩氏の蔵書を十冊位は貰った筈であるが、私から差上げたのは僅か三、四冊に過ぎなかったと思う。こんなことが、乱歩氏に対する私の親しみを急速に深めたことは申すまでもない。」

https://www.aozora.gr.jp/cards/001670/files/54869_58747.html

底本：「江戸川乱歩 日本探偵小説事典」河出書房新社

1996(平成8)年10月25日初版発行

初出：「探偵作家クラブ会報」1954(昭和29)年10月

入力：sogo 校正：noriko saito

2016年3月4日作成

が出て来て、「推理小説家、怪奇・恐怖小説家」と「歴史・時代小説家、音楽評論家」の交流を知ることになりました。普通『銭形平次捕物控』・『音楽は愉し：黎明期音盤収集家随想』で知られる人物なので、今回の発見は興味深いものでした。

確かに、南長崎に「トキワ荘マンガミュージアム」が開館して文化都市再生の機運は高まっています。しかし、宇野功芳(音楽評論家、跡見学園女子大学合唱団常任指揮者)氏が「どうも奇数番号に人気が集まっているが、この曲の可愛らしさを一緒に味わって欲しい。」と HMV(池袋駅西口メトロポリタンプラザ6F)で「ベートーヴェン 交響曲第2番 第2楽章 ワルター指揮 コロンビア交響楽団」を流した光景が思い浮かんで、池袋東口・西口もかつての栄光を取り戻して欲しいと感じました。楽しいひと時を有

難う御座いました。

第3回 「アガサ・クリスティーの世界」を受講して

アガサ・クリスティーの旧訳を見つめ直す

公開講座「アガサ・クリスティーの世界」では、『スタイルズの怪事件』矢沢聖子訳/クリスティー文庫 2003/10、『アクロイド殺し』羽田詩津子訳/クリスティー文庫 2003/12、『牧師館の殺人』田村隆一訳/クリスティー文庫 2003/10、『オリエント急行の殺人』山本やよい訳/ハヤカワ文庫/新訳版 2011/4、『そして誰もいなくなった』青木久恵訳/クリスティー文庫 2010/10 が名訳として紹介されていましたが、江戸川乱歩(1894-1965)が生きた時代にどんな訳が存在したかを見つめ直しました。

私が高校時代に読んだのは、『音と言葉』フルトヴェングラー著/芳賀檀(評論家、ドイツ文学者)訳/新潮文庫 1957 初版, 1986 10 刷、『音楽を愛する友へ』フィッシャー著/佐野利勝(ドイツ文学者)訳/新潮文庫 1955 初版, 1985 13 刷とドイツが舞台の音楽書でしたが、イギリスが舞台のミステリーはどうか調べたところ、『スタイルズ事件』は「いかにも凝りに凝った、という感じの難しい日本語を駆使しない平明な翻訳」の宇野利泰訳/別冊宝石 1952/10、『アクロイド殺人事件』は「職業翻訳家の草分けとして、戦前から多数の翻訳を手掛けた」中村能三訳/新潮社 1956、『牧師館の殺人』は「江戸川乱歩が解説を執筆し、翻訳ミステリーを精力的に刊行するシリーズとして注目された」中の 1 冊である山下暁三郎訳/ハヤカワ・ミステリ 1954/11、『オリエント急行の殺人』は「コナン・ドイルの『シャーロック・ホームズ全訳』など、多くの翻訳作品がある」延原謙訳/ハヤカワ・ミステリ 1954/3、『そして誰もいなくなった』は「映画字幕翻訳を 2000 本近く手がけた第一人者であった」清水俊二訳/ハヤカワ・ミステリ 1955/6 と、錚々たるメンバーでした。

ただ、

・シャーロック・ホームズ『青いガーネット』

"May I ask, my lad," I said, in the blandest voice,

"what your trade may be?"

"Commissionaire, sir," he said, gruffly. "Uniform away for repairs."

延原謙訳

「君、失敬ですが、ご職業は何ですか？」

「便利屋 (コミッショネア) であります。制服はその、修繕 (つくろい) に出していますんで」彼はぶっきら棒に答えた。

駒月雅子訳

「ご職業はなんですか？」

「メッセンジャーです」相手はそっけなく答えた。

なるほど「メッセンジャー」でよろしいか。コミッショネアを別のカタカタで置き換えるなんてことは思いつかなかった。駒月氏は頭がいいなあ。

(『翻訳 blog - RSSing.comhttps://paginary31.rssing.com/chan-16436730/all_p1/』

角川版シャーロック・ホームズを読む(1) May 8, 2013, 2:49 am)

・レイモンド・チャンドラー『長いお別れ』

Not to mention white hair, and not over thirty-five years old.

清水俊二訳

「銀髪だとか、三十五歳以上だとかいうことまでをいう必要もない。」

村上春樹訳

「35 歳にもならないのに白髪だから手配写真は要らない。」

これはここで何回も書いているような翻訳上 (演奏上) の解釈の問題ではない。あきらかな誤訳である。この清水訳は 1958 年初版という。60 年間も誤訳を放置してあるわけである。

(『テリーは若白髪 - 穴村久の書評ブログ - goo ブログ (goo blog) <https://blog.goo.ne.jp/...>』穴村久の書評ブログ 漫才哲学者 (非国家資格) による小説と哲学書の書評ならびに試小説。新連載「失われし時を求めて」)

のように旧訳が誤訳であるという指摘はあり、

・シャーロック・ホームズ『青いガーネット』

DeepL 翻訳ツール

「お願いがあるのですが、職業は何ですか？」

「“コミッショネア”です。修理のために制服を脱ぎました。」と、不機嫌そうに言った。

・レイモンド・チャンドラー『長いお別れ』

DeepL 翻訳ツール

「白髪はもちろんのこと、35歳を超えていない。」

のように機械翻訳も使って、誤訳かどうか検討する時代になりました。このような中、原著の文体の雰囲気を残しているかどうか、日本語としての読みやすさはどうかといった要素も気に掛かります。つまり、一概に新訳は旧訳より良いとは言えないのです。以上のことから、江戸川乱歩が次第に引き込まれ、夢中になって読んでいた旧訳を手にとって、翻訳された当時の時代に思いを馳せるのも良いと考えます。

■ 資 料

令和4年度 春期

跡見学園女子大学の 公開講座のご案内

新座キャンパス

令和4年
6/11
6/25

毎週土曜日
〈全3回〉

世界、日本を代表する作家にふれる
教養コース
ミステリーの愉しみー名作への招待

後援：埼玉県教育委員会・新座市教育委員会・埼玉まなびプロジェクト協賛事業

文京キャンパス

令和4年
7/9
7/23

毎週土曜日
〈全3回〉

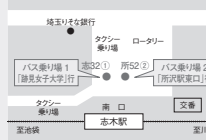
“今”だからこそ見つけ直したい
教養コース
産業社会における倫理を考える

後援：文京区・公益財団法人文京アカデミー



新座キャンパスへのご案内

- 東武東上線（地下鉄有楽町線・副都心線）
「志木駅」下車 南口より西武バス約15分
「跡見女子大」下車



- JR武蔵野線

- 「新座駅」下車 北口より西武バス約7分
「跡見女子大」下車



- 西武池袋線・西武新宿線

- 「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分
「跡見女子大」下車

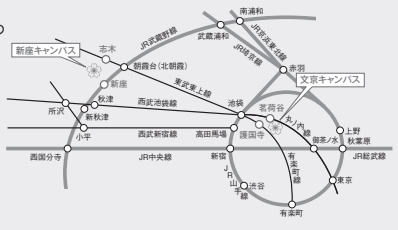
※新座・文京キャンパスともに自家用車でのご来校はご遠慮ください。

文京キャンパスへのご案内

- 東京メトロ丸ノ内線 「茗荷谷駅」より徒歩2分
- 東京メトロ有楽町線 「護国寺駅」より徒歩8分



新座キャンパス 文京キャンパスまでの 路線図



<申込・照会先>



新座キャンパス
教務部教務課 公開講座係
〒352-6501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL 048-478-3340
FAX 048-478-4133
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
https://www.atomi.ac.jp/univ/

文京キャンパス
文京キャンパス事務局 公開講座係
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL 03-3941-7420
FAX 03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
https://www.atomi.ac.jp/univ/

跡見の二つのキャンパスで「新しい学び」を愉しむ

新座キャンパス

教養コース ミステリーの愉しみー名作への招待

令和4年6月11日～6月25日 毎週土曜日(全3回)

時間 10:00～11:30 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 60名(応募者多数の場合は抽選) 受講料 無料
講座責任講師 本学文学部人文学科講師 中山 慎太郎

6/11

越境するミステリーーボーからボードレールへ

講師：本学文学部人文学科講師 中山 慎太郎

アメリカの作家エドガー・アラン・ポーの作品がヨーロッパで高く評価され、人気を博すきっかけは、19世紀のフランスを代表する詩人シャルル・ボードレールにありました。本講座では、ミステリーの原点となった「モルグ街の殺人」など、その魅力を探りつつ、いかにボードレールの感性を刺激したのか、彼らの作品にある共通点を探ってみたいと思います。

6/18

江戸川乱歩の魅力

講師：元立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術委員 落合 教幸

江戸川乱歩は大正時代の終わりと昭和三十年代まで、日本の探偵小説の中心的存在として活躍しました。「人間椅子」「屋根裏の散歩者」といった初期の短編から、「黄金仮面」「黒蜥蜴」など明智小五郎の活躍する長篇小説、「怪人二十面相」以降の少年探偵シリーズまで、それぞれの特徴について、乱歩の生涯や時代状況とあわせて見てみたいと思います。

6/25

アガサ・クリスティーの世界

講師：本学文学部人文学科教授 香山 はるの

「ミステリーの女王」と呼ばれるアガサ・クリスティー（1890～1976）の作品は、今日でも世界中の人々に読み継がれ、愛されています。この講座では、クリスティーの人生や彼女が作家として活躍した時代について考えながら、「アクロイド殺人」や「オリエント急行の殺人」など代表的な作品をいくつか取り上げて、その魅力を探ります。

申込方法
受付期間

往復はがき・FAX・Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「ミステリーの愉しみー名作への招待」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧本講座をお知りになったきっかけ ⑨次回以降の本学公開講座のご案内のご希望の有無
受付期間：5月12日(木)～5月24日(火) 必着
受付方法：往復はがき・FAX・Webフォーム(受付開始日よりHP上に設置)のいずれか

申込先
問合先

跡見学園女子大学 新座キャンパス 教務部教務課 公開講座係
〒352-6501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL 048-478-3340 FAX 048-478-4133
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp https://www.atomi.ac.jp/univ/

新座キャンパス
文京キャンパス
共通事項

- 受講特典：全3回全て出席の受講生に、公開講座修了証を発行します。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来特典としていた本学図書館の利用はできません。
- 感染症対策：受講時に検温やマスク着用のご協力をお願いいたします。マスク未着用、発熱、体調不良時には公開講座の受講をご遠慮いただく場合があります。

文京キャンパス

教養コース 産業社会における倫理を考える

令和4年7月9日～7月23日 毎週土曜日(全3回)

時間 10:00～11:30 場所 文京キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 60名(応募者多数の場合は抽選) 受講料 無料
講座責任講師 本学マネジメント学部マネジメント学科講師 村上 理

7/9

職業人の倫理とは

講師：本学マネジメント学部マネジメント学科講師 村上 理

職業倫理の歴史は古く、古代ギリシア医学における「ヒポクラテスの誓い」は、医師という職業人のための倫理規範として長らく尊重されてきました。現代においても、技術者は技術者倫理、弁護士は弁護士倫理を、それぞれの職業生活において実践しています。職業人に特有の倫理はなぜ求められるのか、考えたいと思います。

7/16

エシカル＝倫理は、おしゃれ

講師：本学マネジメント学部生活環境マネジメント学科准教授 横井 由利

おしゃれという言葉が思い浮かぶのは、楽しさや美しさです。21世紀に入るとエシカルファッションという概念が登場しました。エシカルとは倫理や道徳を意味しますから、環境や人権問題に配慮したファッションということになります。今ファッション界が関わっている問題と「倫理がおしゃれ」といえる未来について考えていきます。

7/23

幸せな会社とは

講師：本学マネジメント学部マネジメント学科教授 細川 淳

「[あわせな会社] って、どんな会社なんだろう。ブラック企業や強欲企業が世間を騒がせていますが、一方でみんなのしあわせを追求する会社がたくさん活躍しています。この講座では多くの「しあわせな会社」をご紹介します。そのカギとなるメカニズムにも触れて参ります。この90分間、「しあわせな時」とをお楽しみください。

申込方法
受付期間

往復はがき・FAX・Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「産業社会における倫理を考える」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧本講座をお知りになったきっかけ ⑨次回以降の本学公開講座のご案内のご希望の有無
受付期間：5月12日(木)～6月14日(火) 必着
受付方法：往復はがき・FAX・Webフォーム(受付開始日よりHP上に設置)のいずれか

申込先
問合先

跡見学園女子大学 文京キャンパス事務局 公開講座係
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL 03-3941-7420 FAX 03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp https://www.atomi.ac.jp/univ/

※教養コースは、受付期間終了後、集書にて受講証を郵送いたします(応募者多数の場合は抽選となります)。
※お申し込みいただいた方々の個人情報、跡見学園女子大学教務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、本学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

令和4年度 秋期

跡見学園女子大学の 公開講座のご案内

新座キャンパス

令和4年

11/19
12/3

毎週土曜日
〈全3回〉

コミュニケーションを通してお互いの理解を深める
教養コース
心の聞き方 伝え方

共催：新座市教育委員会
後援：埼玉県教育委員会・埼玉まなびいプロジェクト協賛事業

文京キャンパス

令和4年

12/10
12/24

毎週土曜日
〈全3回〉

家族も地域もみんなで子育てを応援しよう！
教養コース
子どもと家庭を応援する心理学講座

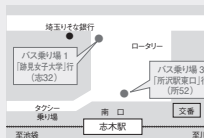
後援：文京区・公益財団法人文京アカデミー



跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY

新座キャンパスへのご案内

- 東武東上線（地下鉄有楽町線・副都心線）「志木駅」下車 南口より西武バス約15分「跡見女子大」下車



●JR武蔵野線

- 「新座駅」下車 北口より西武バス約7分「跡見女子大」下車



●西武池袋線・西武新宿線

- 「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分「跡見女子大」下車

※新座・文京キャンパスともに自家用車のご案内はご遠慮ください。

文京キャンパスへのご案内

- 東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」より徒歩2分
- 東京メトロ有楽町線「護国寺駅」より徒歩8分



新座キャンパス 文京キャンパスまでの 路線図



<申込・照会先>



跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY

新座キャンパス

教務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL 048-478-3340
FAX 048-478-4133
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
https://www.atomi.ac.jp/univ/

文京キャンパス

文京キャンパス事務局 公開講座係

〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL 03-3941-7420
FAX 03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
https://www.atomi.ac.jp/univ/

跡見の二つのキャンパスで「新しい学び」を愉しむ

新座キャンパス

教養コース

心の聞き方 伝え方

令和4年11月19日～12月3日 毎週土曜日〈全3回〉

時間 10:00～11:30 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上（中学生を除く）
定員 60名（応募者多数の場合は抽選） 受講料 無料

講座責任講師 本学文学部コミュニケーション文化学科教授 渡部 美英

11/19

心の声を聴きとる 明快地伝える

講師：本学文学部コミュニケーション文化学科教授 渡部 美英

人の心の中には、「言葉の芽」のようなものがあると考えられています。まだ形にならない、本人もはっきりと気づいていないモヤモヤした言葉です。その「心の声」を聞き取ってみましょう。ご家族やお友達との人間関係が、少し変わります。さらに、聞き手に分かりやすく印象に残る伝え方について、一緒に考えてみましょう。

11/26

日米の文化を比較して

講師：本学文学部コミュニケーション文化学科教授 ネバラ ジョン

日本の文化の本質はどこにあるのでしょうか。他国の文化の本質はどこにあるのでしょうか。グローバル化の中、自国と他国の文化を知ることは欠かすことができません。本講座は、主に日米の文化を比較して、異文化理解を深めることを目標とします。

12/3

映画制作現場から学ぶ—実践コミュニケーション力—

講師：本学文学部コミュニケーション文化学科教授 松浦 雅子

映画制作現場は、およそ百人ほどのスタッフが集まり、一つの作品を作ります。監督、俳優、カメラ照明、美術、衣装……。各々が、役割も性格も年齢性別も異なる集団として、正確のないゴール目指し力を含める特殊な現場です。そんな中で何より大切なのは、心の声を聞き、伝えるコミュニケーション力。どうすれば個性を活かしながら、お互いが分かり合えるのかを、具体的エピソードを交えながら考えていきます。

申込方法
受付期間

Web・復讐はがきのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「心の聞き方 伝え方」受講希望 ②氏名（フリガナ） ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤年齢
⑥職業 ⑦本講座をお知りになったきっかけ ⑧次回以降の本学公開講座のご案内のご希望の有無
受付期間：10月19日（水）～11月2日（水）必着
受付方法：Webフォーム（受付開始日よりHP上に設置）・復讐はがきのいずれか
※E-mailでのお申し込みはお控えください。

申込先
問合先

跡見学園女子大学 新座キャンパス 教務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL 048-478-3340 FAX 048-478-4133
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp https://www.atomi.ac.jp/univ/

新座キャンパス
文京キャンパス
共通事項

- 受講特典：全3回出席の受講生に、公開講座修了証を発行いたします。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来特典としていた本学図書館の利用はできません。
- 感染症対策：受講時に検温やマスク着用のご協力をお願いいたします。マスク未着用や、発熱、体調不良時には公開講座の受講をご遠慮いただく場合があります。

文京キャンパス

教養コース

子どもと家庭を応援する心理学講座

令和4年12月10日～12月24日 毎週土曜日〈全3回〉

時間 10:00～11:30 場所 文京キャンパス 対象 15歳以上（中学生を除く）
定員 60名（応募者多数の場合は抽選） 受講料 無料

講座責任講師 本学心理学部臨床心理学科教授 下山 晴彦

12/10

子どもの成長・家族の成長—家族の悩みを乗り越える心理学—

講師：本学心理学部臨床心理学科教授 福島 里美

お子さんが産まれて、パートナーへの呼び方は変わりましたか？車の座席、誰と夕食をとるか、親をどう呼ぶか等、子どもの成長とともに家族関係も変化します。家族の恵澤や悩みを「子どもの成長・家族の成長」ととらえ、家族が乗り越える方法や、子どもや家族の成長を周囲の人が支援する方法を心理学的観点からお話します。

12/17

地域の子どもと家族を守り応援する文京区の取組について

—文京区子ども家庭支援センターの現在と児童相談所の未来—
講師：文京区役所 子ども家庭部 児童相談所準備担当課長 佐藤 武大

文京区では、家庭における子育て及び子どもの健全な育成を支援するため、平成15年に子ども家庭支援センターを設置し、現在、令和7年度の開設に向けて児童相談所の設置に係る準備を行っています。全国的に児童虐待相談対応件数の増加傾向が続く中、これまでの子ども家庭支援センターと、これからの児童相談所がともに連携し、地域における児童福祉を一層推進していくための取組についてご説明します。

12/24

子どもの安心を育てる—不安を乗り越える心理プログラム紹介—

講師：本学心理学部臨床心理学科教授 下山 晴彦

子どもは、成長していく過程で時として不安や恐怖を経験します。しかし、それを乗り越えることで成長していきます。ご紹介する「安心GETプログラム」は、不安や恐怖などの「困った」「安心」にすることを目指して開発しました。デジタル教材を活用して、不安を否定することなく、大切な気持ちの一つとして子どもたちがうまく付き合う方法を楽しみながら学ぶことができます。

申込方法
受付期間

Web・復讐はがきのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「子どもと家庭を応援する心理学講座」受講希望 ②氏名（フリガナ） ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤年齢
⑥職業 ⑦本講座をお知りになったきっかけ ⑧次回以降の本学公開講座のご案内のご希望の有無
受付期間：10月19日（水）～11月16日（水）必着
受付方法：Webフォーム（受付開始日よりHP上に設置）・復讐はがきのいずれか
※E-mailでのお申し込みはお控えください。

申込先
問合先

跡見学園女子大学 文京キャンパス事務局 公開講座係

〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL 03-3941-7420 FAX 03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp https://www.atomi.ac.jp/univ/

- 教養コースは、受付期間終了後、審査にて受講証を郵送いたします（応募者多数の場合は抽選となります）。
- ※お申し込みいただいた方々の個人情報、跡見学園女子大学教務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません（法令などにより開示を求められた場合を除く）。
- ※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、本学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載いたします。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

公開講座ダイジェスト 2022
跡見学園女子大学公開講座の記録

令和5年3月発行

発 行 跡見学園女子大学

〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2

電話 03(3941)7420

FAX 03(3941)8333

E-mail d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp

URL <http://www.atomi.ac.jp/univ/>
